

鹿児島湾地域の地殻上下変動*

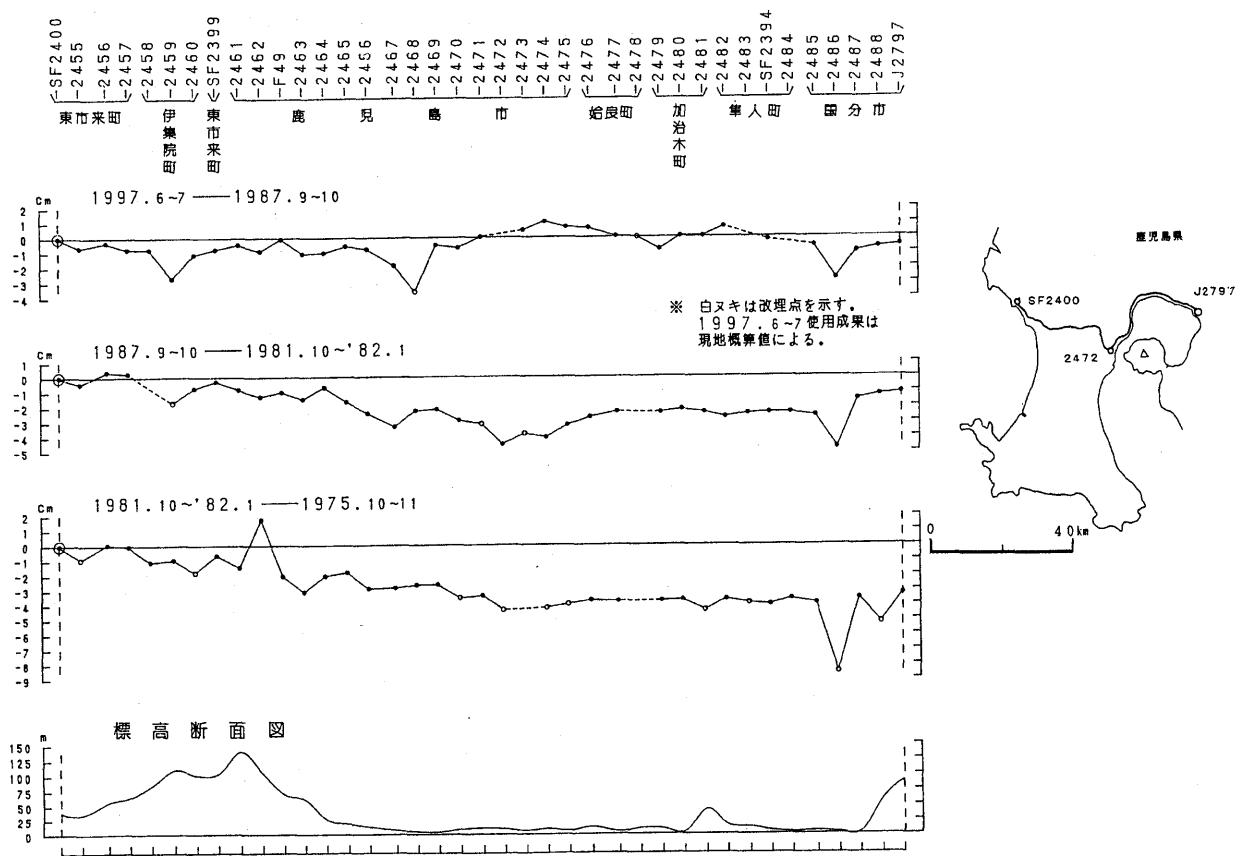
Vertical Crustal Movement around the Kagoshima Bay Region

国土地理院

Geographical Survey Institute

1997年3月に発生した北薩の地震に伴う地殻変動を検出する目的で水準測量を実施した。その中の鹿児島湾沿いの部分を整理して、桜島の火山活動との関連について調査した。第1図はその水準測量結果である。鹿児島湾（始良カルデラ）は沈降を続けていたが、最上段の最近10年間では逆に隆起しているようである。第2図は月平均潮位の差による鹿児島の地殻上下変動の経年変化である。鹿児島は1994年頃から隆起に転じているように見え、第1図の水準測量結果と調和的である。

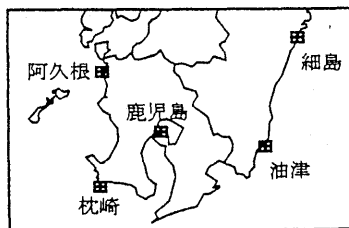
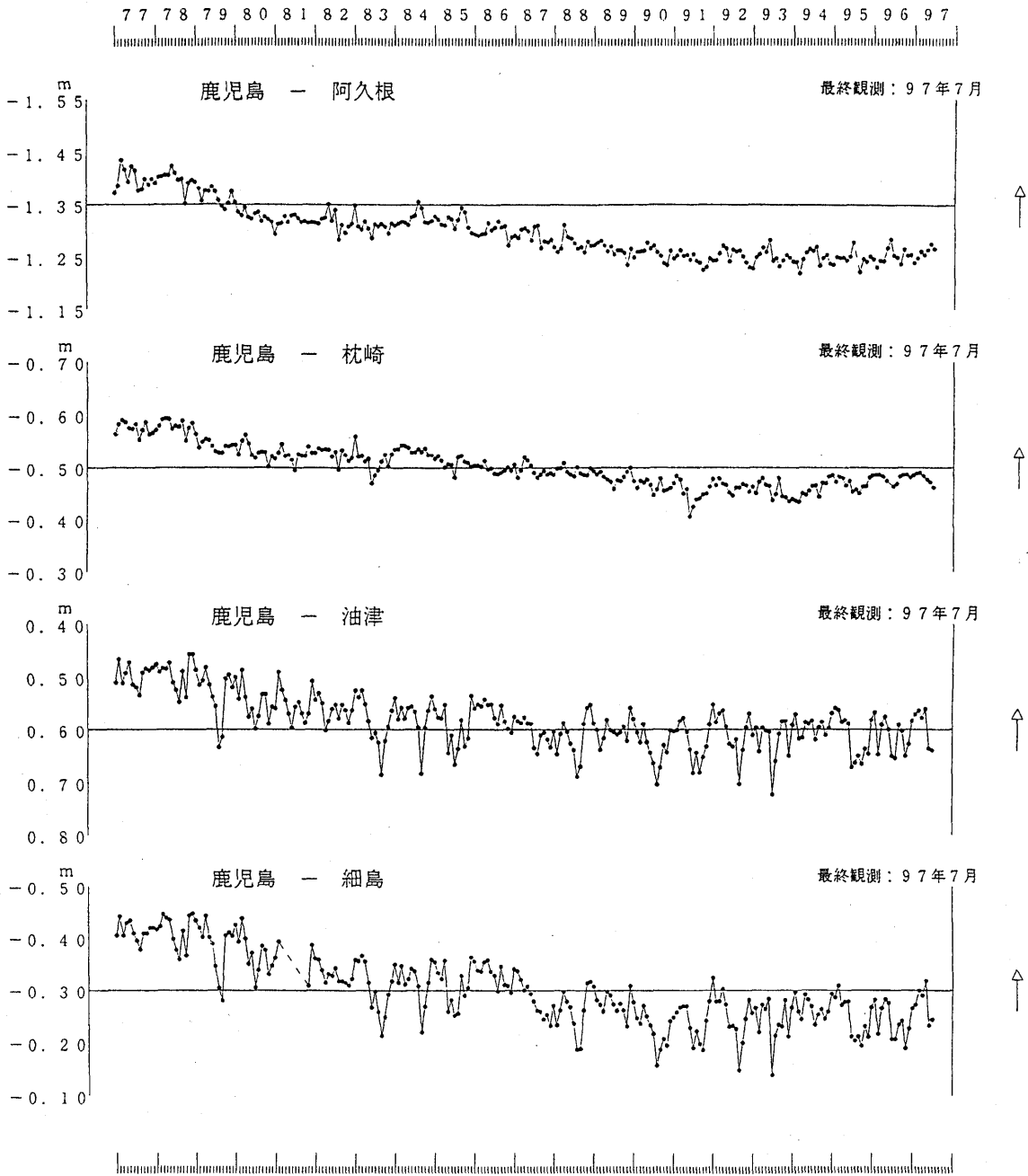
これらの結果は始良カルデラ下のマグマ溜まりの、これまでとれていた収支のバランスが崩れたことを表している。地殻深部からのマグマの供給量が増加したのか、噴出量が減少したのか、これだけではわからない。しかし桜島の火山活動のパターンが変化していることを示していることは間違いない。鹿児島の地殻上下変動は桜島の火山活動の重要な指標なので、今後注意してみていく必要があるだろう。



第1図 鹿児島地方の上下変動

Fig.1 Height changes in the Kagoshima district.

* Received 12 Jan., 1998



第2図 鹿兒島，阿久根，枕崎，油津，細島各験潮場間の月平均潮位差
Fig.2 Differences in monthly mean sea levels between Kagoshima, Akune, Makurazaki, Aburatu and Hosojima tide stations.